

事件らしい事件が起こらない物語はありますが、登場人物が心を全く動かさない物語はありません。場面ごとの、登場人物の気持ちの変化を読み取れるようになります。

● 心情の読み取り方

登場人物の気持ちは、どんなことを手がかりに読み取ってあげばよいのでしょうか。確認していきましょう。

(1) 直接的な表現：「うれしい」「悲しい」などの感情表現、「生まれたての赤ちゃんのような気持ち」といった比喩表現など。

(2) 言葉づかい・口調

例 「ちよっと待てよ」

消え入るような声で言う↓さびしさ・自信のなさなど。

つかみかかりそうな形相で言う↓激しいかり・いかくなど。

(3) 情景描写

例 空はまるでぼくの心をつつしたかのような青空だった。
↓表している気持ちと景色が同じ。

例 空はすみきった青だったが、ぼくにはくもり空にしか見えなかった。↓気持ちとは反対の景色。

● 気持ちの変化の読み取り方

情景描写は、景色と感情が同じときと、逆なときがあるから注意してね。



場面ごとの気持ちを比べる

← 変化している場合

変化のきっかけを探す

- (1) 出来事や事件
- (2) だれかの発言
- (3) 登場人物自身の考え方の変化 など

(1)のように明らかな事件があればわかりやすいですね。(2)は、会話のどこかに決定的なだれかの一言がある場合もありますが、会話の流れでなんとなく登場人物の気持ちが変わっていった、という場合もあります。

(3)は、登場人物自身の内面による変化ですから読み取るのが難しいですね。その人物が考えこんでいるような描写や時間の経過がわかるような表現に着目します。「あの時こう思ったんだ」と、あとから回想されるような場合もあります。





次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「その調子じゃあ、日が暮れちまうよな」

健二はいつものような乱暴な言い方で、美沙のほうに顔を向けて言った。

美沙たちは今、卒業制作として体育館にかざる大きな絵をかいている。有名な画家の絵を細かくモザイクのように分けて、クラスごとに分担し、最後に一枚の絵にするのだ。不器用な美沙は、下書きどおりに色をぬるのに苦労していた。みんなが簡単にできることが、美沙にはむずかしいのだ。

① みんなの視線が集まり、体が火のようだった。健二のほうを見ることもできない。「どうして……」心の中で美沙はつぶやいていた。健二はいつもそうだ。小さな体の久美が、ゴミ出し当番で、大きなゴミぶくろを運びあぐねていたときも、「もたもたするなよ!」と、おこったようにゴミぶくろをかっさらっていった。

そんなことを思って美沙がうつむいてしまったとき、「じゃあさ、青木は色のうすいところだけぬってあげば?」そしたら、はみ出しても目立たないし、こい色をあとからのせることもできるし、いいじゃん」

と健二が言った。クラスのみんなも同意して、みんなでもた色をぬりはじめた。

② もしかして……。美沙は今までとちがった目で健二をそっと見返してみた。

20

15

10

5

1 ——— ①は、どういうことを表していますか。簡単に書きなさい。

2 ——— ②とは、どういう「目」で見たということですか。「今まで」の内容も明らかにして説明しなさい。

これがカギ!

同じ人物の同じ行動でも、見方が変わることで、よってちがって見えることがあるよね。そこから、見ている人の心情の変化が読み取れることがあるよ!



Z会 × ちびむすドリル

考える楽しさを体験しよう!



くわしくはこちら!

Z会の本



カッコいい小学生になろう